

記者発表

日揮(株)技術研究所第1研究棟BSF装置における火災について（速報）

平成19年7月23日
生活環境部原子力安全対策課

1 発生日時

平成19年7月23日（月） 13時2分

2 発生場所

日揮株式会社 技術研究所 第1研究棟（管理区域外）
当該施設においては、放射性物質は使用していない

3 状況

（1） 本日13時2分頃、第1研究棟パイロット室BSF装置のヒーターの加熱により周辺のアルミブロックが溶融し、電線のビニールに着火した。

事業所職員による初期消火により、延焼を防止した。

大洗消防本部により、13時35分、鎮火が確認された。

加工廃材、間伐材、林地残材、ダム流木や建設廃材などの木質系バイオマス原料をHWD（熱水乾燥）処理して炭化物とし、さらにスラリー化して燃料（BSF）を製造する一貫プロセス。

- （2） 放射性物質の漏えい； なし
- （3） 環境への影響； なし
- （4） 人の汚染・被ばく； なし
- （5） 人体への障害； なし
- （5） 原因； 調査中

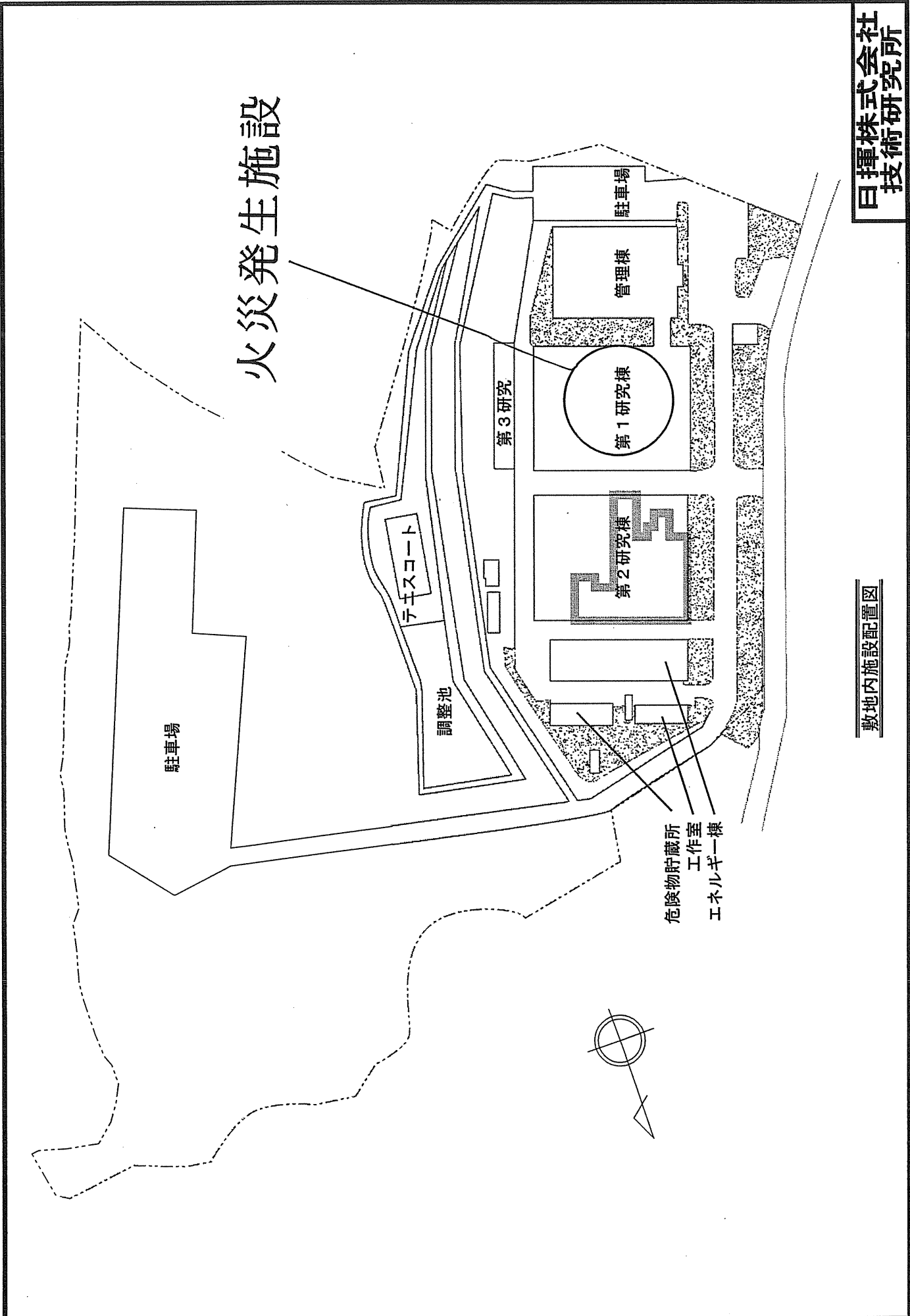
別添 【資料1】日揮株式会社技術研究所配置図

【資料2】バイオマススラリー燃料（BSF）製造プロセス

本件については、後刻、日揮株式会社により記者発表が行われる予定

問合せ先； 原子力安全対策課
担当； 佐藤，江幡
内線； 2917

火災発生施設



危険物貯蔵所
工作室
エネルギー棟

日揮株式会社 (JGC CORPORATION)

Engineering for the Quality of Human Life

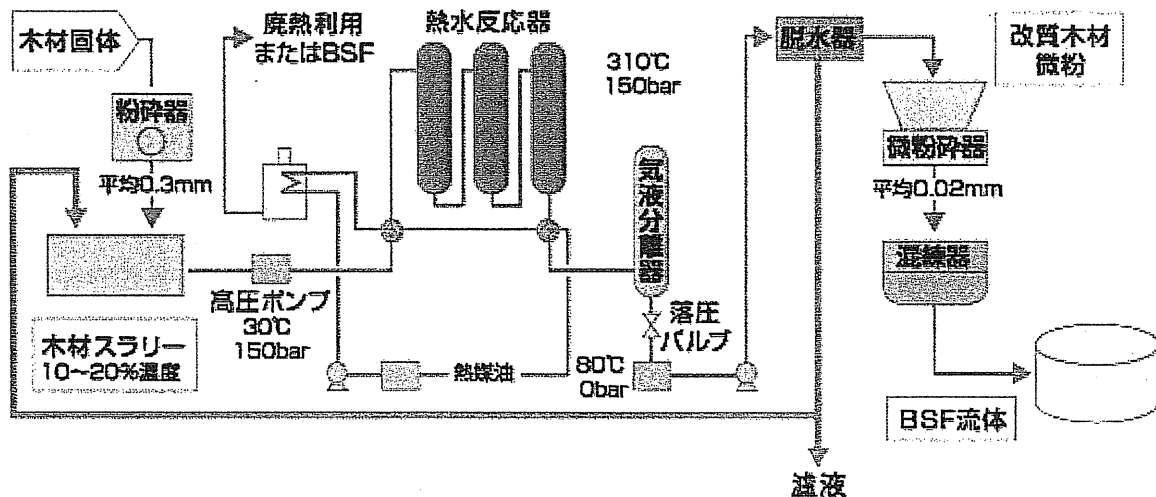
ニュース&インフォメーション	EPC事業	事業投資	エンジニアリングサービス	テクノロジー
IR情報	社会貢献・環境活動	会社情報	調達情報	採用

HOME >> テクノロジー

バイオマススラリー燃料(BSF)製造プロセス

テクノロジー

加工廃材、間伐材、林地残材、ダム流木や建設廃材などの木質系バイオマス原料をHWD（熱水乾燥）処理して炭化物とし、さらにスラリー化して燃料(BSF)を製造する一貫プロセスです。HWD法は自然界で数億年かかる木質バイオマスの石炭化を短時間で実現するユニークな技術です。



特長

- 自然エネルギーで育ったバイオマスを原料とするCO₂ゼロ評価の燃料です。
- 硫黄分・灰分・窒素分が少ないクリーン燃料です。
- ポンプ輸送、タンク貯蔵が可能な液体燃料で発電負荷追従性に優れ、既設の石油および石炭火力発電所への適用が可能です。
- 改質濾液(木酢液相当品)は有効利用が可能(土壌改良剤、木材防腐剤、消臭剤など)です。

適用

- 未利用木質バイオマス(間伐材、林地残材、ダム流木や建設廃木材など)
- 生産型バイオマス(植林事業により製造するバイオマス、パルプの現地残材や農業生産バイオマスのパームヤシ残材など)

開発状況

- 連続式ベンチプラント(バイオマス2kg/hr)終了
- 同パイロットプラント(同50 kg/hr)実施中

テクノロジーに関するお問い合わせはこちら

[PAGE TOP]